

あいさつ

高知学園短期大学 学長 下山 晃

高知学園短期大学は、昭和42年に開学し、その歴史は40年になります。その教育理念はこれまでに一貫して、「健康、医療、教育などの分野で地域社会の発展、住民生活の向上に寄与できる人材の育成」にあります。

この理念を具体化するものとして、本学はどの学科・専攻の卒業生でも栄養士、幼稚園教諭、臨床検査技師、歯科衛生士、看護師などいずれかの資格や免許が取得できる専門教育を行っています。しかし、それだけでなく、現代社会が必要としながらもまだ十分にそれに応える施策がない問題に対しても、学生に自分たちの能力を生かしての支援を体験させ、卒業後に専門的職業人としてさらに質の高い社会貢献を行うことができる人材に育成したいと願っています。

このような視点から、本取組は「食と健康」の授業で知識と技術を学んだ学生が、高齢者と一緒に料理を作り食事をし、また、口腔衛生や臨床検査値などについて話し合い、さらには共にスポーツなどを行うことをとおして、高齢者の健康促進について支援できる人材に育つことを目的としています。

本年度は取組の3年目（最終年度）であり、活動も年度当初から実施し、地域での学生訪問による活動は6月上旬から12月下旬の間に行いました。また、対象地域もこれまでの中山間地域の馬路村、大川村、四万十市西土佐に加え、臨海地域の芸西村も含めました。このように活動地域と訪問回数を増やすことができ、学生の活動の質と高齢者との連帯も向上させることができました。また、年度途中（平成20年10月）には一般社会にも公開の「食と健康フォーラム」を開催し、他大学の教員2名による特別講演、および上記4個所の代表者と参加学生によるそれぞれの地域での活動報告を行うことができました。

上記のように、本取組では、学生の学習と体験教育、および高齢者の多い地域社会への貢献と活性化の目的を十分に達成することが出来たと考えます。むろん、これらの成果は馬路村、芸西村、大川村、四万十市西土佐に在住の方々の意欲に満ちたご協力により可能となったもので関係する方々にお礼申し上げます。

最後に、このような取組の実施を可能にいただいた文部科学省に感謝するとともに、本学はこの取組を単なる教育の一環としてだけでなく、社会とも連帯した活動として継続し、地域社会に貢献する短期大学として活動して行く所存です。